

大分市の小中一貫教育

(令和5年度版)

学校や地域の実情に応じた小中一貫教育の推進



小中合同文化祭での手話合唱
(竹中中学校区)



小中一貫教育公開研究発表会
(戸次中学校区)



百人一首大会
(神崎小中学校)



中学進学に向けた小中オンライン交流
(坂ノ市中学校区)

大分市教育委員会

1 大分市の小中一貫教育

ねらい

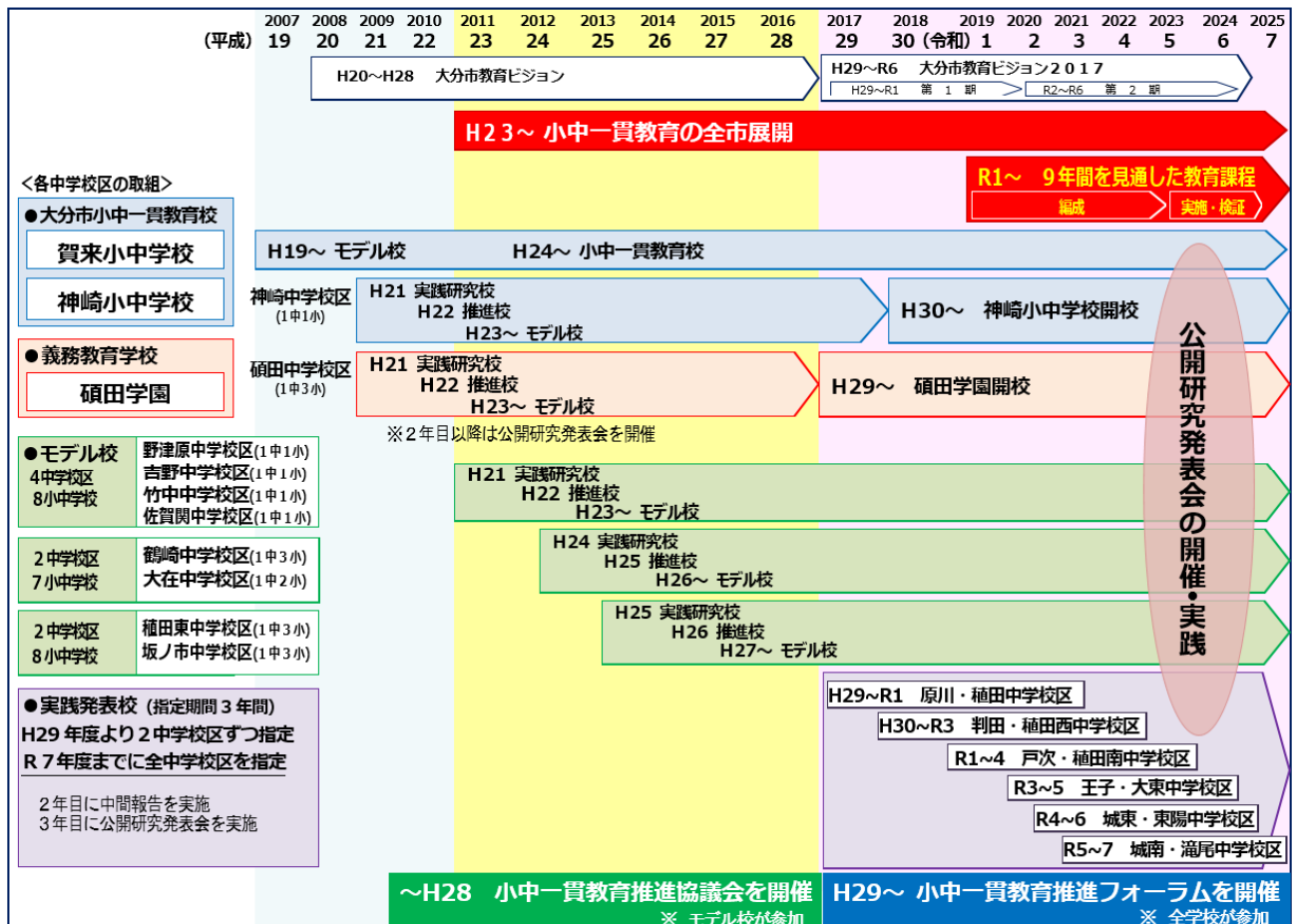
大分市では、子どもたちの心身の発達の変化や生徒指導上の諸問題、学力形成上の特質の違い等による小中の段差（いわゆる中1ギャップ）の軽減を図り、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」をバランスよく育成し、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を育む上から、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う小中一貫教育を推進しています。

基本方針

- 中学校区を実施単位の基本として、市内全中学校区において、学校や地域の実情に応じた小中一貫教育を推進する。
- 各中学校区で設定している目指す子ども像や教育目標等を、学校、保護者、地域で共有するとともに、目標の実現に向け、各教科等や各学年の指導の在り方を検討し、指導の改善を図る。
- 全中学校区において、公開研究発表会を実施し、学校、地域の特色を生かした系統的な教育活動の在り方などについて研究・発表することにより、その研究成果を学校間で共有し、取組の活性化を図る。

推移

平成16年度	小中一貫教育推進に係る研究に着手
平成19年度	小中一貫教育校として賀来小中学校を開校
平成21年度	吉野中学校区、竹中中学校区、佐賀関中学校区、神崎中学校区、野津原中学校区（1中1小型）及び碩田中学校区（1中複数小型）の計6中学校区を実践研究校に指定し、その後、同校区が推進校、モデル校として順次研究を進める
平成23年度	研究指定校の取組の成果や課題を踏まえ、市内全小中学校において小中一貫教育を展開
平成24年度	鶴崎中学校区、大在中学校区の2校区を大規模校における実践研究校として指定し、その後、同校区が推進校、モデル校として順次研究を進める
平成25年度	植田東中学校区、坂ノ市中学校区の2校区を大規模校における実践研究校として指定し、その後、同校区が推進校、モデル校として順次研究を進める
平成29年度	義務教育学校として碩田学園を開校 毎年度、2中学校区を実践発表校区に指定し、3か年計画で研究を進める
平成30年度	小中一貫教育校として神崎小中学校を開校



2 取組の概要

本市では、これまでの取組を通して、児童生徒の学力の向上や自尊感情の高まりなどに加え、教職員間の協働意識の高揚や小中学校間の系統性を踏まえた授業力の向上など、多くの成果が見られています。

各学校においては、こうした取組の成果を踏まえ、今後とも、自ら学び、自ら考える力などの生きる力を育むため、9年間を見通した系統的な教育課程を編成し、5つの視点に沿って小中一貫教育の推進に努める必要があります。

視点1	目指す子ども像の共有	各中学校区における目指す子ども像や取組の重点等について、小中学校の教職員間で共有を図る	関連 P.3
視点2	学びの連続性の確保	教育課程の編成や指導方法の工夫改善を図り、9年間の学びの連続性を確保する	関連 P.4
視点3	児童生徒の交流	合同行事や交流活動により、児童生徒が共に活動する機会を充実する	関連 P.5
視点4	教職員間の連携・協働	中学校区の取組の重点等に基づき、小中学校の教職員間の連携・協働を深める	関連 P.6
視点5	家庭・地域社会への情報発信	学校ホームページや広報紙を充実させ、小中一貫教育の取組状況や成果・課題等の積極的な情報発信に努める	関連 P.7

本年度の重点

- 学校や地域の特色を生かし、9年間を見通した系統的な教育課程の編成、実施、改善
- 小中合同授業研究会等を通じた組織的な授業改善
- 小中一貫教育の取組状況、成果・課題の検証結果及び今後の取組について、家庭や地域社会への積極的な情報発信
 - ・学校ホームページや広報紙の充実

各中学校区の取組

■小中一貫教育全体計画及び年間指導計画等に基づく取組の充実を図る

- 全校又は特定の学年・集団での児童生徒の合同行事、交流活動（オンライン交流を含む）の実施
- 中学校区作成の9年間を見通した学習・生活のきまりの活用、改善
- 取組の成果・課題の検証を通じた指導計画等の改善 等

モデル校

■これまでの取組の一層の充実を図り、研究成果等の還元にも努める

- 小中合同授業研究会の公開等を通じた成果の還元
- 小中学校間での乗り入れ授業の実施 等

【1中1小モデル校】

吉野・竹中・佐賀関・野津原中学校区

【1中複数小モデル校】

鶴崎・大在・植田東・坂ノ市中学校区



実践発表校

■学校や地域の実情に応じた取組の充実を図り、研究成果等の還元にも努める

- 小中合同研修会等を通じた計画的・継続的な研究の推進
- 公開研究発表会、中間報告等を通じた成果の還元 等

【実践発表校】

王子・大東中学校区（3年次）※公開研究発表会

城東・東陽中学校区（2年次）※中間報告会

（大分市小中一貫教育推進フォーラム）

城南・滝尾中学校区（1年次）

大分市小中一貫教育校 賀来小中学校 神崎小中学校の取組

■大分市小中一貫教育校ならではの特色ある取組の充実を図り、研究成果等の還元にも努める

- 教職員全員に兼務発令
- 前期（1～4年）、中期（5～7年）、後期（8・9年）の3期に応じた教育活動
- 第1学年から英語教育を実施
- 中期での一部教科担任制の実施
- キャリア教育の推進
- コミュニティ・スクールの活用
- 9年間を見通した生活・学習のきまりの活用や各期別集会の実施 等



義務教育学校 碩田学園の取組

■義務教育学校として、9年間の連続性を重視した特色ある教育活動の展開にも努める

- 日常的な異学年交流等による心育での充実
- コミュニケーション能力を育む教育の充実
- 前期（1～4年）、中期（5～7年）、後期（8・9年）の3期に応じた教育活動
- 第1学年から英語教育を実施
- 中期での一部教科担任制の実施
- コミュニティ・スクールの活用
- 9年間を見通した生活・学習のきまりの活用や各期別集会の実施 等



3 小中一貫教育の5つの視点に沿った具体的な取組

大分市では、以下の5つの視点に沿って、小中一貫教育の推進に努めています。

視点1
目指す
子ども像の
共有

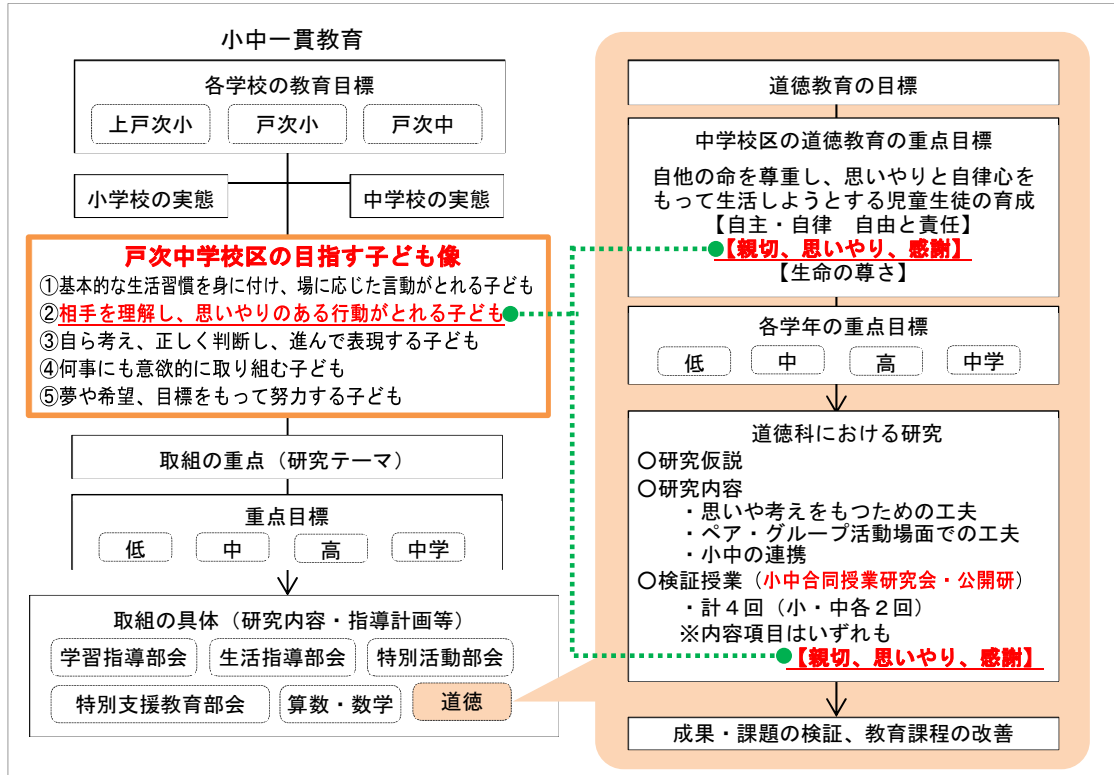
各中学校区における目指す子ども像や取組の重点等について、小中学校の教職員間で共有を図りましょう。

取組例

- 中学校区の児童生徒の状況や課題、義務教育9年間で身に付けておくべき力等について、小中学校間で共通理解の下、**目指す子ども像を設定**する。
- 小中学校間で目指す子ども像に基づく協議を重ねるなど、**共通認識を醸成**する。
- 目指す子ども像や教育目標等について、**学校ホームページ等を通して家庭や地域と共有**する。
等



※戸次中学校区の研究内容より



取組状況

- コロナ禍において活動が制限される中、研究テーマや研究仮説を修正しつつ、各中学校区で目指す子ども像に応じた取組が進められています。

今後に向けて

- 児童生徒の実態や経年変化を客観的に把握し、状況に応じて目指す子ども像を見直す必要があります。
- 目指す子ども像は、なるべく具体的に設定した上で、目標の達成に向けて、9年間の系統性を重視した教育課程を編成・実施していく必要があります。

視点2
学びの
連続性の
確保

教育課程の編成や指導方法の工夫改善を図り、9年間の学びの連続性を確保しましょう。

取組例

- 中学校区作成の9年間を見通した学習・生活のきまりを活用・改善する。
- 指導内容や児童生徒のつまずき等に応じた学習指導に係る系統表を作成・活用する。
- 授業展開や板書構成、ICTや思考ツールの活用等の授業づくりについて、小小・小中で統一したり系統性をもたせたりする。

※植田南中学校区の研究内容より

生活ガイド・学習ガイド

植田南中学校区 小中一貫教育 生活ガイド

項目	げんきよく 小1・2年生	はつきりと 小3・4年生	心をこめて 小5・6年生	T・P・Oに合わせて 中1・2・3年生
1 目標を定める	どうしようとしてやることを決めることができる。	学校の目標を守るができる。(非習得)	学校の目標を守るができる。	学校の目標を守るができる。
2 目標を達成する	しゅまわりをきくことができる。	授業の活動の始めの目標を守るができる。	授業の活動の始めの目標を守るができる。	授業の活動の始めの目標を守るができる。
3 目標を達成する	高い目標をきくことができる。	高い目標をきくことができる。	高い目標をきくことができる。	高い目標をきくことができる。
4 目標を達成する	つよくつよくやる。	つよくつよくやる。	つよくつよくやる。	つよくつよくやる。
5 目標を達成する	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。
6 目標を達成する	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。
7 目標を達成する	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。
8 目標を達成する	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。
9 目標を達成する	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。
10 目標を達成する	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。
11 目標を達成する	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。	新しい目標をきくことができる。

植田南中学校区 小中一貫教育 学習ガイド

項目	いえのとよりよくして 小1・2年生	友だちから学んで 小3・4年生	自分から進んで 小5・6年生	自分の可能性を切り拓く 中1・2・3年生
1 目標を定める	いえのとよりよくしてやる。	友だちから学んでやる。	自分から進んでやる。	自分の可能性を切り拓く。
2 目標を達成する	いえのとよりよくしてやる。	友だちから学んでやる。	自分から進んでやる。	自分の可能性を切り拓く。
3 目標を達成する	いえのとよりよくしてやる。	友だちから学んでやる。	自分から進んでやる。	自分の可能性を切り拓く。
4 目標を達成する	いえのとよりよくしてやる。	友だちから学んでやる。	自分から進んでやる。	自分の可能性を切り拓く。
5 目標を達成する	いえのとよりよくしてやる。	友だちから学んでやる。	自分から進んでやる。	自分の可能性を切り拓く。
6 目標を達成する	いえのとよりよくしてやる。	友だちから学んでやる。	自分から進んでやる。	自分の可能性を切り拓く。
7 目標を達成する	いえのとよりよくしてやる。	友だちから学んでやる。	自分から進んでやる。	自分の可能性を切り拓く。
8 目標を達成する	いえのとよりよくしてやる。	友だちから学んでやる。	自分から進んでやる。	自分の可能性を切り拓く。
9 目標を達成する	いえのとよりよくしてやる。	友だちから学んでやる。	自分から進んでやる。	自分の可能性を切り拓く。
10 目標を達成する	いえのとよりよくしてやる。	友だちから学んでやる。	自分から進んでやる。	自分の可能性を切り拓く。
11 目標を達成する	いえのとよりよくしてやる。	友だちから学んでやる。	自分から進んでやる。	自分の可能性を切り拓く。

小中9年間各教科で付けたい基礎基本の力の系統表

教科	小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	中1年	中2年	中3年	
国語	○話題に沿って自分の話をしたり、話を聞いたりできる	○話題に沿って自分の考えと相手の考えを比べながら話することができる	○話題に沿って自分の考えと相手の考えを比べながら話することができる	○互いの立場や意図をはっきりさせて話し合いをまとめることができる	○話題や疑問視しながら話し合い、互いの意見や結論が付け合えることができる	○話題や疑問視しながら話し合い、互いの意見や結論が付け合えることができる	○互いの立場や意図をはっきりさせて話し合いをまとめることができる	○互いの立場や意図をはっきりさせて話し合いをまとめることができる	○互いの立場や意図をはっきりさせて話し合いをまとめることができる	○互いの立場や意図をはっきりさせて話し合いをまとめることができる
算数	○具体物やノートを使って自分の考えをペアの友だちに説明することができる	○ノートに書いた自分の考えを友だちと共有し、ペアグループに伝えることができる	○ノートに書いた自分の考えを友だちと共有し、ペアグループに伝えることができる	○友だちの考えと自分の考えを比較しながら、自分の考えを再構築することができる	○友だちの考えと自分の考えを比較しながら、自分の考えを再構築することができる	○友だちの考えと自分の考えを比較しながら、自分の考えを再構築することができる	○友だちの考えと自分の考えを比較しながら、自分の考えを再構築することができる	○友だちの考えと自分の考えを比較しながら、自分の考えを再構築することができる	○友だちの考えと自分の考えを比較しながら、自分の考えを再構築することができる	○友だちの考えと自分の考えを比較しながら、自分の考えを再構築することができる
社会	図・絵	テープ図	線分図	数直線	数直線	数直線	数直線	数直線	数直線	数直線
理科	○実験や観察の結果を共有し、気づいたことを出し合える	○実験や観察の結果を共有し、気づいたことを出し合える	○実験や観察の結果を共有し、気づいたことを出し合える	○実験や観察の結果を共有し、気づいたことを出し合える	○実験や観察の結果を共有し、気づいたことを出し合える	○実験や観察の結果を共有し、気づいたことを出し合える	○実験や観察の結果を共有し、気づいたことを出し合える	○実験や観察の結果を共有し、気づいたことを出し合える	○実験や観察の結果を共有し、気づいたことを出し合える	○実験や観察の結果を共有し、気づいたことを出し合える

小中9年間各教科でどのような場面でペアや班活動ができるか

教科	小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	中1年	中2年	中3年	
国語	○楽しんで表現することができる 【文章の構成】 - 文章のつながり - 文のつながり - 句読点	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる
算数	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる
社会	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる	○読み聞かせや正座して ○3位以上の加減法ができる

各学校の資料の詳細については、Te-Comp@ss のファイル管理に掲載しています。

取組状況

- 各中学校区の研究内容に応じて、学習・生活のきまりや指導内容の系統表等の作成・活用が進んでいます。
- 授業展開や板書構成、ICTや思考ツールの活用等の授業づくりについて、小中で統一したり系統性をもたせたりすることで、組織的な授業改善につながっています。

今後に向けて

- きまりや系統表の活用、小中で統一した授業づくり等について、適宜、評価・改善を行うことが必要です。

視点3

児童生徒の交流

合同行事や交流活動により、児童生徒が共に活動する機会を充実しましょう。

取組例

- 児童会・生徒会活動の様子を写真や紙面で交流したり、校内に掲示したりする。
- あいさつ運動や清掃活動等、中学校区共通の取組について、オンラインで意見交換会を行う。
- 学校間で学習成果や作品の回覧・交流を行ったり、文化発表会を見学したりする。
- 中学校区共通の手話合唱曲を決め、その様子を動画撮影し、各校で見合う。
- 職場体験学習や読み聞かせ、体験入学等において、母校の小学生と交流する。
- 環境保全や美化活動等の地域行事に小中合同で参加する。

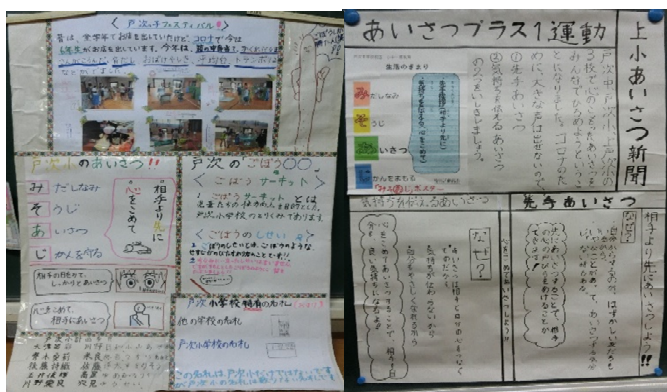
等

※戸次中学校区の取組より

児童会・生徒会新聞の交流（各校での回覧及びメッセージ交流）

中学校の絵がかっこよかった。

～小は、挨拶に力を入れていることが分かったので、私たちも、もっとがんばりたいです。



小学校の様子が懐かしかった。

無言清掃を小学生の頃からしてけば、それが当たり前になったと思う。



※種田南中学校区の取組より

児童会・生徒会役員によるオンライン会議



椅子や机の運び方はどのようにしていますか。

かかえて運ぶ方が床に傷をつけなくていいです。

※大東中学校区の取組より

中学生による読み聞かせ



ボランティアの方からのアドバイスを受け、班員との打合せを入念に行っている様子

本番の様子

先輩としての自覚

憧れの気持ち

中学生になった自分をイメージ



※王子中学校区の取組より

中学校体験入学



6年生の輝く目

張り切って頑張る部活生

授業体験後の部活動見学の様子

※東陽中学校区の取組より

児童生徒交流会



力を入れている活動は～です。

代表の児童生徒が集まり、校区で共通して行う「思いやりのある心を育てる活動」について話し合う様子

取組状況

- 感染症対策や学校間移動の負担軽減の工夫が見られます。
- 児童生徒が一堂に集まらない場合も、中学校区共通の活動をそれぞれ行ったり、オンラインで交流したりすることにより、児童生徒の協働意識や自尊感情の高まりにつながる事が期待できます。

今後に向けて

- 児童生徒自身が、交流の目的やよさを実感し、学校や地域の一員としての自覚をもつことができるよう、継続的に指導することが大切です。

視点4

教職員間の連携・協働

各中学校区の取組の重点等に基づき、小中学校の教職員間の連携・協働を深めましょう。

取組例

- 小中合同研修会を通じた重点目標や指導計画等の作成及び取組の評価・改善
- 小中合同授業研究会や互見授業を通じた授業改善
- 合同学力向上会議・学力分析会議等の開催及び共通理解
- 学習・生活のきまりに基づいた指導

等

※王子中校区の取組より

研究仮説 ①子どもの思考の流れから課題を設定し、
②意図的にペア・グループトークを行い、
③お互いの考えを伝え合う場を工夫すれば、
認め合い支え合い、学ぶ楽しさを実感する児童生徒が育つであろう。

①～③を検証の柱として、
検証授業、事後研を実施
しています。

【「話す力・聞く力・伝え合う力」の系統表】

	小学校						中学校		
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
話す	自分の考えを具体物や絵・図などを使って、はっきり話すことができる。	自分の考えを具体物や絵・図や式などを使って、相手のことを意識しながら話すことができる。	自分の考えを具体物や絵・図や式などを使って、相手のことを意識しながら話すことができる。	自分の考えを具体物や絵・図や式などを使って、相手のことを意識しながら話すことができる。	自分の考えを図や式などを使って、相手を意識しながらわかりやすく筋道を立てて話すことができる。	自分の考えを図や式などを使って、相手を意識しながらわかりやすく筋道を立てて話すことができる。	思考の過程や判断の根拠などを数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合うことができる。	思考の過程や判断の根拠などを数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合うことができる。	思考の過程や判断の根拠などを数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合うことができる。
聞く	友だちの考えを再現できるようにしっかり聞くことができる。	自分の考えを友だちの考えと比べ、共通点や相違点を見つけながら聞くことができる。	自分の考えを友だちの考えと比べ、共通点や相違点を見つけながら聞くことができる。	自分の考えを友だちの考えと比べ、共通点や相違点を見つけたり疑問点を考えたりしながら聞くことができる。	自分の考えを友だちの考えと比べ、共通点や相違点を見つけたり疑問点を考えたりしながら聞くことができる。	自分の考えを友だちの考えと比べ、共通点や相違点を見つけたり疑問点を考えたりしながら聞くことができる。	思考の過程や判断の根拠などを数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合うことができる。	思考の過程や判断の根拠などを数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合うことができる。	思考の過程や判断の根拠などを数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合うことができる。
伝え合う	友だちの考えを分かるように伝える。 友だちの考えでもやってみる。	友だちの考えを理解し、よさを考えたり発表したりする。 友だちの考えを取り入れてやってみる。	友だちの考えを理解し、よさを考えたり発表したりする。 友だちの考えを取り入れてやってみる。	友だちの考えを理解し、よさを考えたり発表したりする。 友だちの考えを取り入れてやってみる。	友だちの考えのよさを理解し、どの考えが一番わかりやすいかなどを考えたり発表したりする。 友だちの考えのよさを生かしながら問題を解く。	友だちの考えのよさを理解し、どの考えが一番わかりやすいかなどを考えたり発表したりする。 友だちの考えのよさを生かしながら問題を解く。	思考の過程や判断の根拠などを数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合うことができる。	思考の過程や判断の根拠などを数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合うことができる。	思考の過程や判断の根拠などを数学的な表現を用いて筋道を立てて説明し伝え合うことができる。

小中9年間でやる伝え合う活動の系統性を考えながら、算数・数学以外の教科においても、日々の話し合い活動やペア・グループトーク、全体交流の中で意識して取り組んでいます。

※大東中校区の取組より

合同研修会で使用する教員向けのワークシート

iPadの共有ドライブを利用し、資料や画像を全員に共有できるようにしたことで、情報交換しやすくなりました。

一人最低一回は他校の校内研修に参加し、授業参観や事後協議を行っています。事前に合同研修会で指導案を審議し、小中、小小連携を図っています。

取組状況

- 感染症対策を行いつつ、会議の持ち方を工夫する取組が多く見られています。
- 児童生徒の姿に基づき、課題や手立てを共通理解することは、「義務教育の9年間に責任を持って教育活動を行うこと」などの意識付けにつながると期待できます。

今後に向けて

- 理念や取組が形骸化しないよう、新年度への引継ぎを丁寧に行っておく必要があります。
- 校区の状況に応じて、組織や体制の見直しを柔軟に行っていくことも考えられます。

学校ホームページや広報誌を充実させ、小中一貫教育の取組状況や成果・課題等の積極的な情報発信に努めましょう。

取組例

- **情報発信の場の工夫**
…学校ホームページ、小中一貫教育だより、学校だより、懇談会、学校運営協議会 等
- **発信する内容の充実**
…全体計画や年間指導計画、重点目標、小中合同研修会や児童生徒交流等の取組の様子、児童生徒の感想、中学校区で作成している各種手引き（学習・生活のきまり、家庭学習の手引き、情報モラルのマナー等）、各種アンケート調査の結果 等

※城東中学校区の HP より

※吉野中学校区の HP より

取組状況

- 学習・生活のきまりを懇談会や学校ホームページで知らせたり、中学校のテスト週間に合わせた「家庭学習習慣化ウィーク」を設けたりするなど、校区の実情に応じた家庭や地域との連携に努めています。

今後に向けて

- 学校ホームページや広報誌の充実引き続き取り組んでいくことが大切です。
- 情報モラルの問題については、小中で連携して取り組んでいくことが求められます。
- 学校評価の項目に取り入れるなど、小中一貫教育について、地域住民等の理解や協力が促進されるよう努める必要があります。

※佐賀関中学校区の HP より

児童生徒の交流活動や教員の合同研修の様子に加え、災害時の対応や学校運営協議会の様子等、家庭や地域との共通理解が必要な情報を随時更新しています。

4 本年度の重点

※以下のグラフや学校の声は「令和4年度大分市小中一貫教育に係る取組状況調査（全校調査）」より抜粋したものの

重点1 学校や地域の特色を生かし、9年間を見通した系統的な教育課程の編成、実施、改善

各学校では、昨年度までに9年間を見通した系統的な教育課程の編成を終え、今年度から全面实施することとしており、適宜、改善に努めていくことが大切です。

<教育課程の評価・改善に向けた取組例>

- ・小中合同授業研究会等で校区の道德教育の重点目標に沿った内容項目の授業を見合う
- ・学校や地域の特色を生かした「総合的な学習の時間」の学習課題を定める
- ・中学校区で作成した「学びの系統表」等を次年度の教育課程に掲載することを検討する 等

学校の声

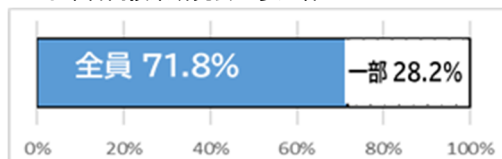
- 合同研修会において、「9年間でのつきたい力」の**焦点化と共通理解**をすることにより、9年間を見通した教育課程の実践・見直し・再編成ができた。
- 合同研修会において、教科・領域部会をもち、各学校の教育課程を見ながら、指導方法の工夫・改善について話し合うことができた。
- ▲ 9年間を見通した指導計画や授業案、板書計画を構築していくことが課題である。
- ▲ 小中で指導目標など共通のイメージをもって進められるように、さらに研修を深めていきたい。

重点2 小中合同授業研究会等を通じた組織的な授業改善

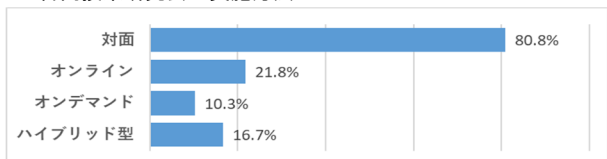
各中学校区の研究主題に基づき、9年間を見通した学習・生活のきまりや、各教科の基礎・基本の一覧、ペアやグループ活動の系統表等が作成されています。また、こうしたきまりや系統表等を基に、授業展開や板書構成、ICTや思考ツールの活用等の授業づくりについて、児童生徒の発達の段階に応じた取組が推進されています。

今後も引き続き、小中合同授業研究会等を通じ、組織的な授業改善に努めていくことが大切です。

R4 小中合同授業研究会の参加者



R4 合同授業研究会の実施方法



学校の声

- 授業参観を一部の教員に制限したが、指導案や板書の写真等は参観していない教員にも配布したり、ICTを使って共有したりした。
- 「書く」「話す」等豊かな表現力を高めることを小中合同授業研究会の研究主題として位置付け、日頃から小中の教員がお互いに刺激を与え合いながら実践を積んでいる。
- ▲ 教員が一堂に会することが難しいため、全教員への取組の浸透や連携・協働をいかにしてすすめていくかが課題である。
- ▲ 一部代表者による開催であったため、全教員が小中一貫教育に対して十分な理解と積極的な実践にまで至っていない。

重点3 小中一貫教育の取組状況、成果・課題の検証結果及び今後の取組について、家庭や地域社会への積極的な情報発信

・学校ホームページや広報紙の充実

各学校では、学校ホームページ等を通じて、小中一貫教育についての情報発信が行われています。

令和4年度の取組状況調査によると、ホームページや広報紙に加え、75.6%の学校で学校運営協議会制度等を活用した情報発信が行われており、今後も、各中学校区で育成を目指す子ども像や教育目標などを、学校、保護者、地域で広く共有していくことが大切です。

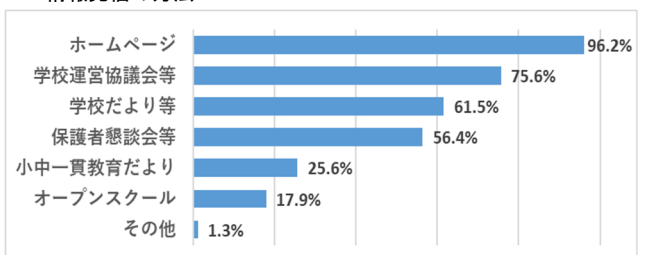
ホームページへの掲載必須事項

- ・小中一貫教育の全体計画
- ・年間指導計画
- ・本年度の重点目標
- ・校区の小中学校へのリンク

学校の声

- 学級懇談会で保護者への家庭学習についての啓発を行い、統一した取組ができた。
- 重点目標について、家庭や地域とも共有できるように、学校評価表や学校運営協議会等での意見を集約し、学校の取組を検証し、改善していった。
- ▲ 家庭や地域への情報発信が不十分であった。来年度の組織作りの際に「情報発信部」を設け、積極的な発信を行っていく計画を考えている。

R4 情報発信の方法



5 小中一貫教育に係る意識調査の結果

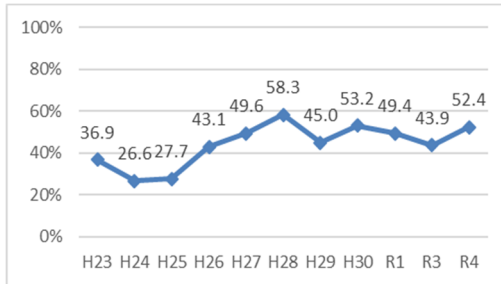
これまでの取組を通して、中学校進学への不安感の軽減や児童生徒の豊かな心の育成への効果、教職員の協働意識の高まりや9年間の系統性を踏まえた授業力の向上など、一定の成果が見られています。

意識調査の結果

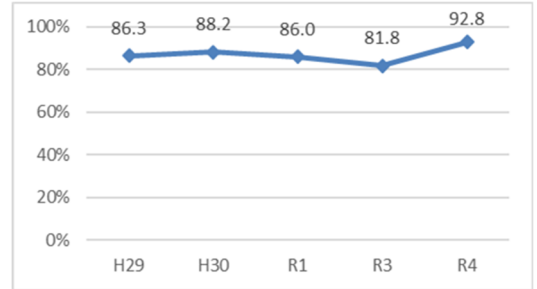
※各項目について、肯定的な回答が得られた割合を算出しています。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査を実施していません。

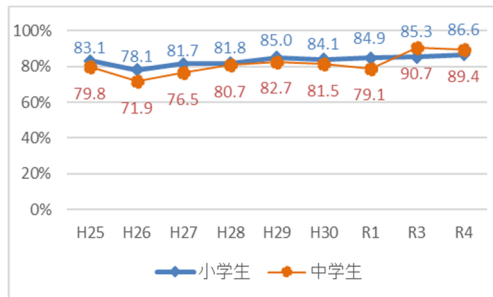
中学進学に不安はない (小学6年生)



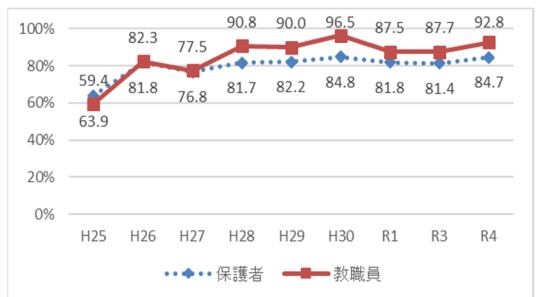
「学習・生活のきまり」を守っている (児童生徒)



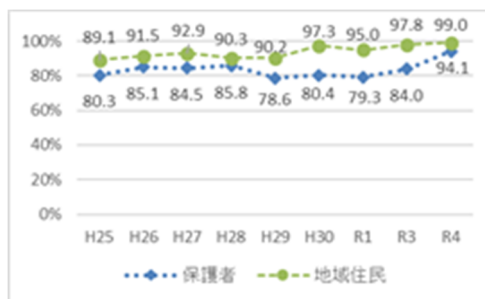
中学生のようにになりたい (小学生) 先輩としての自覚がある (中学生)



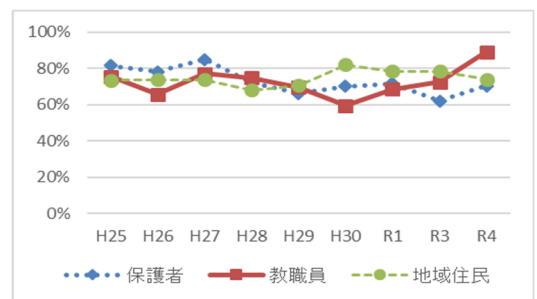
小中一貫教育の取組は中学進学への不安感の軽減に効果がある (教職員・保護者)



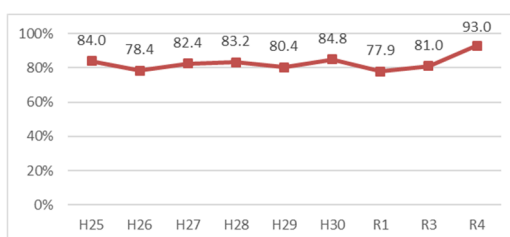
合同行事等は豊かな心の育成に効果がある (保護者・地域住民)



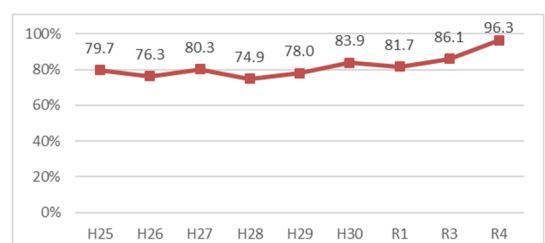
学校は家庭や地域に積極的に情報発信している (教職員・保護者・地域住民)



小中の系統性を踏まえて授業をしている (教職員)



目指す子ども像を教職員間で共有し、主体的に小中一貫教育を行っている (教職員)



6 小中一貫教育推進フォーラムについて

本市の小中一貫教育における成果の還元や今後の小中一貫教育の在り方について理解を深めることを目的として、平成29年度から「小中一貫教育推進フォーラム」を開催し、専門家による講義や実践発表校による研究報告、グループ別協議等を行っています。3年ぶりの集合開催となった令和4年度の開催状況は以下の通りです。

日時	令和5年2月22日（水）14:00～16:30
内	実践発表 1 王子中学校区 2 大東中学校区
	指導助言 大分大学教育学部教授 伊藤 安浩 氏
容	グループ別協議・情報交換 「本年度の重点に基づく取組の成果や課題について」
	全体講評 大分大学教育学部教授 伊藤 安浩 氏



伊藤教授による講評（抜粋）

- ・ 学習指導要領の変遷を辿ると、平成20年改訂で巻末付録として他校種の指導要領が付き、平成29年改訂では前文が付いた。前文の最後の一文において、「幼児期の教育の基礎の上に、中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに小学校学習指導要領を定める。」と述べられており、学校種間の接続が強く示されるようになった。
- ・ 小中一貫教育の取組は生涯学習とつながっている。学校種の連携は、小から中、中から高、高から大、大から社会やその後の人生へと、市民として社会を生きていくための「学習習慣、学力の形成」そして「人間性・人間力の育成」につながっていくものとして、大きな意味をもっている。
- ・ 合同授業研究会は異校種間で見合うことに意義がある。中学校のスピード感や1時間勝負の時間配分、小学校の導入の多様さや丁寧さなど、それぞれ学ぶべきことがある。教師として指導の幅が広がり、レパートリーが増え、成長できる機会である。また、ペア活動やグループ活動は、現在、高校や大学でも進んでおり、今の子どもたちが高校や大学に進学しても役に立つことである。
- ・ 子ども同士が関わることによって生まれる力は大きい。幼い子は成長することへの素直な憧れがあり、親や先生のような大人ではなく、中学生のようなちょっと先の未来を生きている人と関わることに意味がある。また、中学生は小学生から純粋無垢で真っすぐな瞳を向けられ、自分が役に立っていること、成長できていることを実感することができる。
- ・ 検証・評価の方法について、評価は対外的に伝えればよいものではなく、先生方のやる気につながるものが大切。アンケートを活用しながら数値的に取れるものは取りつつ、「エピソード評価」をお勧めしたい。小中連携の取組による子どもの行動や発言を簡潔に記述し、先生方にフィードバックする。先生方は子どもの成長の姿が喜びでもあるので、そうした子どもの姿からやる気を引き出していく。HPや広報誌等で保護者向けにも伝えるとよい。
- ・ 教育課程の中では、総合的な学習の時間をどう扱うか。他の教科等は指導内容が決まっているが、総合的な学習は9年間を通して学校や地域に応じた工夫ができる。成人年齢の引き下げに伴い、中3は卒業後3年で法的には成人になる。また、こども基本法が令和5年4月から施行される。こうした点も踏まえた教育活動が求められる。

7 本年度の予定

令和5年度小中一貫教育公開研究発表会

研究指定（年次）	校区名	開催予定日
実践発表校（3年次）	大東中学校区	令和5年 9月28日（木）
	王子中学校区	令和5年 11月27日（月）

令和5年度小中一貫教育推進フォーラム（中間報告）

研究指定（年次）	校区名	開催予定日
実践発表校（2年次）	城東中学校区	令和6年 2月21日（水）
	東陽中学校区	



8 お知らせ

各ページで紹介した実践発表校の研究成果（学びの系統表や学習・生活のきまり等）について、Te-Comp@ssのファイル管理に掲載しています。ぜひ参考にされて下さい。

Te-Comp@ssのファイル管理≫03_各種教育情報≫01_市教委≫02_学校教育課2[指導担当班]≫11_大分市小中一貫教育